

令和4年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立住吉小学校

1 自己評価書

教育目標	心身ともに健康で「生き抜く力」を身につけた児童の育成					
基本方針	コミュニティ・スクールを推進し、地域の学校支援体制を構築しながら「知」「徳」「体」のバランスのとれた子どもを育成する。					
本年度 重点目標	1 コミュニティ・スクールを推進する。 2 基礎・基本の定着と活学力の向上を目指した確かな学力を育成する。 3 一人ひとりを生かす生徒指導の充実と豊かな心を育成する。 4 健康でたくましい体を育成する。 5 教育環境の整備を推進する。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	B	B
			・具体的な対策の実施	B		
	②	授業改善	主体的な学びの実現に向けて授業改善に努めた。(一斉教授型の授業スタイルからの脱却)	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート	B	
	③	家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・児童生徒アンケート	A	B
				・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
				一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。	・教師アンケート	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。	・保護者アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・児童生徒アンケート	A	B
・教師アンケート				B		
・保護者アンケート				B		
・児童生徒アンケート				A		
(成果と課題) ○「全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用」「授業改善」「読書活動の充実」「ふるさと学習及びESDの推進」において、教師アンケートで5項目、児童生徒アンケートで2項目の評価が上がった。 ▲振り返りに関する項目の教師アンケートの数値が若干(0.2ポイント)下がっており、取組が十分ではなかったことがうかがえる。 (改善策等) ・基礎基本を確実に定着させるため、授業開始直後の5分間において、フラッシュカードや小テスト、音読テキスト等を活用する。また、ICTを活用してeライブラリに取り組む時間を前学期よりも多く設定し、復習を確実に行う。 ・「振り返り」を充実させるために、「振り返り」の目的を確認したり学習のまとまりを意識したりするなど、教師の側でポイントを確実に押さえておく。 ・読書活動を充実させるため、適宜家庭に本を持ち帰せたり週末に家庭での読書についての声掛けをしったりするなど、家庭を巻き込みながら読書活動を充実させる工夫を行う。 ・ふるさと学習やESDをより推進するために、総合的な学習の時間や特別活動の年間指導計画の見直しを行う。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間づくりを努め、心の通う対人交流が深まってきた。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	B		
	③	基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート	B	B
				・児童生徒の姿	B	
				・児童生徒アンケート	B	
(成果と課題) ○児童アンケートでは、「学校で友達や先生と楽しく過ごすことができている」という結果が出ており、学校が楽しさを感じられる場となっている。 ○不登校等生徒指導上の問題にチームとして取り組むという意識が教職員の間に定着してきており、報告・連絡・相談しながらのスムーズな対応ができるようになってきている。 ▲教師アンケートにおいて、児童の行動規範の高まりが不十分であるという結果が続いている。 (改善策等) ・行動規範の向上のため、児童朝会等で生徒指導主事から行動規範に関する指導を全校に対して一斉に行い、連動して学級担任が学級で指導に当たる。また、各場面で守るべき行動規範について児童に前もって確認しておき、実際の場面で守ることができた児童を確実に褒める。 ・基本的生活習慣の徹底のために、挨拶等、全教職員が同じ意識で指導できるように共通理解を図り、粘り強く指導する。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C	
	②	働きやすい環境づくり	業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。	・教師アンケート	C	C
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
	(成果と課題) ○教職員がお互いに声を掛け合いながら仕事を進めることにより教職員の中に一体感が生まれており、助け合いの中で充実感を感じられる職場になった。 ▲「出勤・退庁時刻」の分析と活用が不十分であり、2学期における時間外勤務が月80時間を超える教職員数は、微減にとどまっている。					
(改善策等) ・時間外勤務が長くなりしがちな教職員の仕事の進み具合を気に掛け合い、可能なところは手伝いながら組織的に仕事を進める。 ・ミライムの掲示板を有効活用するなど、教職員への伝達に掛かる時間を減らしていく。 ・長くなりしがちな会議時間を短縮するため、数日前には資料配付を行い、会議中には確認事項と検討事項を分けて扱う。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
	(成果と課題) ○教育活動を支える組織である「もてころサポーター」の活動が少しずつ軌道に乗ってくことで、教育活動がより充実してきた。 ○職員室の雰囲気の良さについて、複数の方から声をいただくなど、職場に温かな雰囲気がさらに満ちてきた。 ▲「もてころサポーター」の定例活動に参加してくださる方が固定化するなど、いろいろな方が参加しやすい状況にはなっていない。 ▲ホームページにアップする校内の様子が、偏ってしまう時期があった。					
(改善策等) ・「もてころサポーター」のメンバーをより広く募集し、多方面の方々に関わっていただくことができるようにする。 ・ホームページにアップする校内の様子に偏りがないように気を付けるとともに、複数の教職員がホームページのアップに関わるようにする。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満